九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

Long-term outcomes and prognostic factors in 78 Japanese patients with advanced pancreatic neuroendocrine neoplasms: a single-center retrospective study

李, 倫學

https://hdl.handle.net/2324/1654732

出版情報：九州大学, 2015, 博士（医学）, 課程博士
バージョン：
権利関係：やむを得ない事由により本文ファイル非公開（2）

氏　　名：李　倫學

論 文 名： Long-term outcomes and prognostic factors in 78 Japanese patients with advanced pancreatic neuroendocrine neoplasms: a single-center retrospective study
（　日本人の切除不能進行性膵神経内分泌腫瘍（PNEN）における長期予後と予後予測因子の検討
：自験例 78 例における retrospective 研究 ）

区　　分：甲

論　文　内　容　の　要　旨

【背景】本邦における膵神経内分泌腫瘍 (pancreatic neuroendocrine neoplasms, 以下 PNEN) の患者数は年々増加しているが, 特に切除不能進行例における長期予後と予後予測因子に関しては未だ明らかにされていない.

【方法】1987 年 1 月～2015 年 3 月の間に,当科で診療歴のある切除不能進行性 PNEN 78 例を対象に, 長期予後と予後予測因子を retrospective に検討した.
全生存期間 (OS) の算出にはカプラン・マイヤー法を, 予後予測因子の単変量・多変量解析には Cox 比例ハザードモデルを用いた.

【結果】膵神経内分泌腫瘍 (pancreatic neuroendocrine tumor, 以下 PNET) と膵神経内分泌癌(pancreatic neuroendocrine carcinoma, 以下 PNEC) の OS 中央値は, 83.7 ヶ月と 9.1 ヶ月であり, PNEC で有意に短かった (ハザード比 [HR]: 0.02, 95%信頼区間 [CI]: 0.01－0.08, $P < 0.001$).
PNET 症例 64 例における Ki－67 指数のカットオフ値に関して, WHO 分類 2010 で推奨されている 2%では OS に有意差は認めなかったが (HR:2.19, 95% CI:0.88－6.16, $P = 0.0989$), 10％以上の症例ではそれ以下の症例と比較して OS が有意に短かった (HR:9.95, 95% CI, 3.01－32.97, $P < 0.001$).

単変量解析による予後予測因子の検討では，分子標的薬の登場前に治療された症例 (HR: 0.07, 95% CI: 0.03－0.19, $P < 0.001$) と，骨転移を有する症例 (HR: 4.38, 95% CI: 1.42－11.29, $P = 0.013$)で OS が有意に短かった．多変量解析でも，Ki－67 指数 10%以上 (HR: 38.8, 95% CI: 8.42－226.62, $P < 0.001$)，治療時期：分子標的薬登場後 (HR:0.02, 95% CI: 0.00－0.11, $P < 0.001$) と骨転移(HR: 5.56, 95% CI: 1.10－24.00, $P = 0.039$) が独立した因子であった．

【結論】今回我々は，日本人の切除不能 PNEN における長期予後と予後予測因子を明らかにした．